

# 庄内の古民家で地域の歴史と食文化の継承

特定非営利活動法人 手仕事舎そうあい [宮崎県都城市]

(助成決定時の名称:庄内活性化協議会)

テーマ

## 古民家「持永邸」を活かした地域づくり

設立年月 2010年10月(2011年5月法人化)

メンバー数 13人

代表者名 蒲生 芳子

連絡先

〒885-0114

宮崎県都城市庄内町12625(事務所)

NPO法人 手仕事舎 そうあい

蒲生 芳子

tel 0986-37-0002

fax 0986-37-0002

e-mail mochinagasoai@btvm.ne.jp

URL <http://www.btvm.ne.jp/~mochinagasoai/>

わたしたちについて

- (1) 歴史的文化遺産である古民家「持永邸」を、高齢者や障害者も含めた人々の集える「地域の茶の間」として利活用し、地域コミュニティの再構築(新たなコミュニティの創造)を目指します。

- (2) 地域の歴史と食文化を継承し、地域の活性化、地域のきずなの再構築を目指します。

### 活動に至った理由や背景

私たちの住む「都城市・庄内」は、古くは都城地域の中心として栄えていました。戦国時代の山城「安永城址」を中心とした明治時代を彷彿とさせる落ち着いた佇まい、美しい石垣のまち並み、様々な歴史的・文化財、用水路を中心とした田園風景など、訪れた者を魅了します。

しかし、「庄内」地域でも少子高齢化がすすみ、さらに、平成の不況の波と家畜伝染病の「口蹄疫」、新燃岳噴火による農産物や観光への大打撃などで、地域経済全体が疲弊し活気と元気がなくなっています。私たちは、衰退する「郷土・庄内」を「どげんかせんといかん」と考え、地域の活性化に知恵をしぼっていました。そんな折り、「庄内」のシンボルともいえる「持永邸」の取り壊しの話が聞こえてきました。

「持永邸」は、築100年以上・総面積680坪の大邸宅です。城砦を思わせる石垣と明治時代の本宅・日本庭園、白壁の土蔵がマッチした景観は歴史的遺産といえます。この「持永邸」を保存して利活用し、「庄内」復興のシンボルとして生かすことを考えました。

私たちは「持永邸」を買取り、カフェ「もちなが邸」として再生することにしました。「もちなが邸」を中心として、庄内の町の真ん中に人々が集い、働き、交流し、情報発信し、庄内郷の歴史や文化を学び伝えることで「ふるさとの再発見」ができる、「活気と元気」を取り戻すきっかけになると考えました。

### ○コンセプト

- ・歴史的文化遺産である古民家「持永邸」を、高齢者や障害者も含めた人々の集える「地域の茶の間」として利活用し、地域コミュニティの再構築(新たなコミュニティの創造)を目指します。
- ・地域の歴史と食文化を継承し、地域の活性化を目指します。

## 活動内容

### ○「もちなが邸」を地域コミュニティの核とするための取り組み

地域の皆さんと、「もちなが邸」を盛り上げていくために様々な取り組みを行っています。

### 町家カフェ「もちなが邸」のメニューの検討、試食会

開店準備のかたわら、地域の皆さんにお集まりいただき「もちなが邸」で提供するメニューの検討や試食会を行いました。料理は大変好評で、スタッフ一同自信を持って開店にこぎ着けました。

### ○古民家再生プロジェクト

歴史的文化財である「もちなが邸」母屋を改修するにあたり、専門家の協力をあおぎ、古民家の再生体験を講習会形式で行うことになりました。

一般の皆さんに古民家に対する理解と知識を、そして日本建築の伝統的な材料である「竹・木・瓦・土」を使用した実際の作業を体験していただくことで、日本の風土に根ざした建物の素晴らしいところを再認識していきます。

### 検討会議

専門家に実際に建物を見学してもらい、工法や材料、経費、時間的スケジュールの検討を行いました。

### 会議内容

- ・県外の漆専門家（丸京）との交渉と予定確認
- ・実際の左官職人による補修作業と体験講習について（見学会）
- ・母屋の解体体験について
- ・木舞作り、土壁塗り、漆喰塗りの体験について
- ・実作業のスケジュールと、講演会、見学会、解体体験などの組み合わせ方法と日程・経費の確認。

### 広報

プレスリリースとともにホームページで告知しました。



町屋カフェ「もちなが邸」の入口



試食会メニュー



古民家再生体験会「木の巻」



古民家再生体験会「瓦の巻」



古民家再生体験会「土の巻」



古民家再生体験会「竹の巻」

## 古民家再生体験会

第1回：10月16日（日）

「木の巻」…日向古材店

参加者：12名

講師：日向古材本店 店主 海野氏

海野氏による講義と実際の作業体験（柿渋塗り）

第2回：10月30日（日）

「瓦の巻」…高砂瓦工業

参加者：14名

講師：高砂瓦工業 仙臺社長

座学：歴史的建造物と瓦の役割

現代に生きる瓦の技術

様々な応用

実際に瓦を使って花壇造り体験

第3回：11月6日（日）

「土の巻」…丸京

参加者：13名

講師：丸京 鳥越事業部長

座学：日本建築における漆喰の重要性

漆喰は石灰と麻、海草だけでできている

その他興味深い漆喰についての話

第4回体験会：11月20日（日）

「竹の巻」…竹の会

参加者：9名

講師：竹の会 川添事務局長

座学：竹は日本建築の名脇役である

日本建築における実例紹介

その他、竹に関するいろいろな話

○「もちろんが郷」を地域コミュニティの核とするための様々な取り組み

## カヌーイベントを開催

「もちろんが郷」のある庄内地域の宝は清涼な水です。地元庄内川の大切さをみんなに体感してもらうことを目的に、子どもたちの夏休みに「カヌーイベント」を開催しました。

参加者28名で、カヌー遊びのあとは手作りピザをみんなで楽しみました。

## 田舎暮らし体験ピザづくり

自家菜園の野菜を使用したピザづくりを行いました。参加者は25名で、田舎の空気のなかでの「石がま」を体験しました。終了したあとは、美味しいピザをみんなで味わいました。

## ソバまき

地域の子どもたちを中心に、ソバまき体験会を行いました。みんな初めてソバの種まきを行い、とっても楽しそうでした。



ソバまき体験会



カヌーイベント



「もちなが邸」についての新聞記事

## ○地域の歴史を学ぶ

### 道守みやざき交流会が開催されました

地域住民らに道路を美しくするきっかけをつくることを目的とした「道守みやざき交流会2011」の主会場として、「もちなが邸」を使用しました。市内外から集まった約50人の参加者が、古民家の見学や石垣の残る町内を散策し、地元の人たちから地域の歴史や由来の説明を受けました。

### 地域の歴史を学ぶシンポジウム

平成23年11月12日、13日開催の「そうあい村まつり」において、歴史シンポジウムを開催しました。当シンポジウムでは、「庄内の歴史を語る会」会長による庄内地域の歴史などの講演、女流講談師一龍斎貞友さんによる「庄内歴史講談」、散策マップを製作して「庄内まち歩き」を行いました。

### \*一龍斎貞友氏プロフィール

「人間国宝・一龍斎貞水」の弟子で、女流講談のほか、テレビアナウンサーとしても大活躍中です。

- ・ちびまるこちゃん（おかあさん役）
- ・クレヨンしんちゃん（マサオ役）
- ・忍たま乱太郎（しんべ工役）など出演多数

### 庄内フォトコンテスト、田舎暮らし体験継続中

昔の面影を残す私たちの故郷・庄内の良さを再発見してもらうとともに、多くの人たちに知つてもらうために「第1回庄内フォトコンテスト」を開催しました。

## ○成果

地域の情報発信と賑わいの創出ができつつあります。

町家カフェ「もちなが邸」は、開業以来順調に営業を続けています。人気の少なかった「庄内町」に活気が出てきたことを実感しています。また、様々なイベントには、地域の商工会や町おこしグループにも積極的に協力していただき、最も大切な目的だった人と人の「ふれあい」「助け合い」がよみがえってきました。

ホームページで全国へ情報発信した結果、県外や遠方からわざわざ「もちなが邸」を目的に訪ねて来られるお客様も増えてきています。

最大の成果は、地域のコミュニティ復活です。



土蔵で開催した「庄内フォトコンテスト」



「もちなが邸」正面の石垣

## 今後の予定

### ○古民家を楽しみ、日本の伝統建築を伝承していきます

1年目のテーマは「学び」でした。古民家再生プロジェクト「築」の開催で、地域に眠る古民家の魅力や伝統建築の素晴らしさを多くの皆さんに伝えることができたと考えます。1年間の活動を基に、2年目からは将来を担う子どもたちを中心として、より多くの方々が「楽しめる」場づくりをしていきます。定期的に「祭り」やイベントを開催するとともに、田舎暮らし体験講座などを継続し、多くの人たちが「ふる里・庄内」を知り、集って欲しいと考えます。

その第一弾として昨年度行った女流講談師・一龍斎貞友氏を招いて「一周年記念行事」を企画しています。また、好評だった「庄内フォトコンテスト」も第2回目を企画していく、ふる里の魅力再発見と情報発信に努めています。

### ○地域の伝統食で六次産業を創出します

地域に人が集い、生活をするためには産業が必要です。私たちの住む「都城市・庄内」地域といえば、基幹産業である農業が最も大切です。

しかし、地域の農業は現在危機的な状況にあります。不景気、低価格の外国産農産物、新燃岳噴火による農産物被害。これらを解決する方策として生産と加工販売が一体となつた農業モデルの構築が急がれます。地域の生産物と一体となつた独自产品を開発し、将来的には特産品へと発展させ、地域に産業・雇用の創出を図る必要があります。地域で活動する「西岳農産加工グループ」「庄内農産加工グループ」等と連携し、新商品開発をすすめていきます。



田舎暮らし体験—ピザづくり

### ○庄内仕事人ネットワーク「よろず仕事人」ネットワークの構築

全国的に中山間地域は、そこに暮らす人たちにとってかけがえのない生活の場であるとともに、国土保全や水源かん養など大変重要な役割を果たしていますが、人口減少や高齢化の進行、基幹産業である農林水産業の低迷などにより、地域活力の喪失及びそれらの機能が著しく低下しています。

私たちのふる里・庄内でも同じ悩みをかかえています。一人暮らし高齢者などが生活に支障をきたす「ちょっとした」不便を解決するシステムとして「よろず仕事人」ネットワークを構築し、快適な生活と新たなコミュニティを目指します。

具体的には、現役を退いてはいてもまだまだ元気で、世の中の役にたつプロの技術を持つ人たちが、業者に頼むほどでもない家庭で困っているちょっとした仕事を低料金でお手伝いする、というものです。

#### 【例えば】

- ・屋根や雨樋に詰まった火山灰の除去・水道の不具合
- ・配管の詰まり・住宅の修繕・瓦の修繕・電球の取り替え
- ・野菜のつくり方・イベント盛り上げ(ポン菓子・焼き芋等)
- ・石垣の町並案内・ストーブの薪の調達・庭木の剪定・一人暮らし高齢者等の家や庭の掃除など家事手伝い

上記は一例ですが、様々な問題を解決しながら、人と人を結ぶネットワークを構築していきます。